

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向 平成 28 年 5 月

○ 概要

(1) 平成 28 年 5 月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同様。）は 5,879 億円（伸び率（対前年度同期比、以下同様。）▲0.4%）で、処方せん 1 枚当たり調剤医療費は 8,895 円（伸び率▲1.9%）であった。（→P.1~2）

調剤医療費の内訳は、技術料が 1,454 億円（伸び率 0.6%）、薬剤料が 4,414 億円（伸び率▲0.7%）で、薬剤料のうち、後発医薬品が 652 億円（伸び率 4.6%）であった。（→P.4）

3要素分解 （→P.8~9）	処方せん 1 枚当たり 薬剤料	処方せん 1 枚当たり 薬剤種類数	1 種類当たり 投薬日数	1 種類 1 日当たり 薬剤料
実数	5,520 円	2.80 種類	23.0 日	86 円
伸び率（%）	▲2.3	▲1.1	+1.8	▲2.9

(2) 薬剤料の多くを占める内服薬 3,648 億円（伸び幅（対前年度同期差、以下同様。）▲28 億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは 21 循環器官用薬の 789 億円（伸び幅▲77 億円）で、伸び幅が最も高かったのは 62 化学療法剤の 131 億円（総額 315 億円）であった。（→P.10）

年齢区分 （→P.10~15）	内服薬 総額 （伸び幅）	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	3,648 億円 （▲28 億円）	21 循環器官用薬 （789 億円）	11 中枢神経系用薬 （604 億円）	39 その他の代謝性 医薬品（492 億円）
0 歳以上 5 歳未満	36.6 億円 （▲1.4 億円）	44 アレルギー用薬 （16.2 億円）	61 抗生物質製剤 （9.3 億円）	22 呼吸器官用薬 （5.2 億円）
5 歳以上 15 歳未満	79.6 億円 （▲1.4 億円）	44 アレルギー用薬 （36.1 億円）	11 中枢神経系用薬 （14.4 億円）	61 抗生物質製剤 （11.0 億円）
15 歳以上 65 歳未満	1,277 億円 （▲3 億円）	11 中枢神経系用薬 （263 億円）	21 循環器官用薬 （238 億円）	39 その他の代謝性 医薬品（180 億円）
65 歳以上 75 歳未満	928 億円 （▲6 億円）	21 循環器官用薬 （241 億円）	39 その他の代謝性 医薬品（147 億円）	11 中枢神経系用薬 （105 億円）
75 歳以上	1,327 億円 （▲17 億円）	21 循環器官用薬 （308 億円）	11 中枢神経系用薬 （221 億円）	39 その他の代謝性 医薬品（161 億円）

(3) 処方せん 1 枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では 8,895 円（伸び率▲1.9%）で、最も高かったのは京都府（10,776 円（伸び率▲0.8%））、最も低かったのは福岡県（7,775 円（伸び率▲2.7%））であった。

また、伸び率が最も高かったのは熊本県（伸び率 1.5%）、最も低かったのは福井県（伸び率▲7.0%）であった。（→P.27~28）

《《後発医薬品の使用状況について》》

【後発医薬品薬剤料】 652 億円（伸び率：4.6%、伸び幅：29 億円）（→P.36~37）

【後発医薬品割合】（→P.35）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） ^注	65.2%	+6.4%
薬剤料ベース	14.8%	+0.7%
後発品調剤率	65.7%	+4.2%
（参考）数量ベース（旧指標）	43.5%	+4.9%

注）〔後発医薬品の数量〕 / （〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕 + 〔後発医薬品の数量〕）で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.37）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	+4.6%	+21.4% （0 歳以上 5 歳未満）	▲3.0% （60 歳以上 65 歳未満）
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	14.8%	15.8% （75 歳以上）	10.4% （5 歳以上 10 歳未満）

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.38~44）

年齢区分 （→P.38~44）	内服薬 総額 （伸び幅）	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	577 億円 （+23 億円）	21 循環器官用薬 （162 億円）	23 消化器官用薬 （100 億円）	11 中枢神経系用薬 （65 億円）
0 歳以上 5 歳未満	5.6 億円 （+1.0 億円）	22 呼吸器官用薬 （2.2 億円）	61 抗生物質製剤 （1.3 億円）	44 アレルギー用薬 （1.2 億円）
5 歳以上 15 歳未満	10.4 億円 （+1.2 億円）	44 アレルギー用薬 （4.8 億円）	61 抗生物質製剤 （2.4 億円）	22 呼吸器官用薬 （1.7 億円）
15 歳以上 65 歳未満	189 億円 （+1 億円）	21 循環器官用薬 （46 億円）	23 消化器官用薬 （29 億円）	11 中枢神経系用薬 （27 億円）
65 歳以上 75 歳未満	149 億円 （+5 億円）	21 循環器官用薬 （53 億円）	23 消化器官用薬 （25 億円）	33 血液・体液用薬 （17 億円）
75 歳以上	223 億円 （+15 億円）	21 循環器官用薬 （63 億円）	23 消化器官用薬 （46 億円）	11 中枢神経系用薬 （28 億円）

【後発医薬品 都道府県別】（→P.57~62）

	全国	最高	最低
処方せん 1 枚当たり後発医薬品薬剤料	987 円	1,335 円（岩手県）	824 円（佐賀県）
処方せん 1 枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	+3.0%	+8.9%（愛媛県）	▲1.1%（沖縄県）
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	65.2%	76.9%（沖縄県）	55.2%（徳島県）
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	14.8%	19.3%（鹿児島県）	11.9%（徳島県）
後発医薬品調剤率	65.7%	76.4%（沖縄県）	58.5%（山梨県）
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	43.5%	54.2%（沖縄県）	37.1%（徳島県）

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 平成 28 年 5 月現在の電算処理割合は、処方せん枚数ベース、医療費ベースともに約 99%である。